長安門（ちょうあんもん）と西安門（せいあんもん）

南京町のシンボルである長安門（楼門）は日中両国の平和と友好を願って、中国政府が海外に輸出することを許可した第一号の「漢白玉（かんぱくぎょく）楼門」である。「漢白玉」とは北京の南に位置する河北省右家荘に産出する大理石のことを指している。

楼門の柱型には、無数の龍と雲の彫刻が施されており、約１００人の工程師が約１年半かけて制作し 1985（昭和 60）年に完成したものである。いつも記念写真を撮る観光客で賑わっている、まさに南京町の玄関にふさわしい門といえる。

また、2005（平成 17）年 1 月、南京町の西の入口に、震災からの復興のシンボルとして「西安門」が完成した。旧来からの老朽化した「西楼門」を撤去し、震災 10 年を機に、地元商店街が建て替えを行ったものである。新しい門は、商業が栄えた中国の北宋時代の門をモデルに、中国語で「失ったものを取り戻す」という意味の「光復」の文字が掲げられている。夜になると明るく浮かび上がり、幻想的な雰囲気を味わえる。それはまるで、震災の暗闇から光を取り戻したまちを象徴しているかのようである。

長安門

西安門

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著